

例年、ギフチョウとの出会いを求めて早春の加古川里山の雑木林へと踏み込むと、林床を黒い小型のチョウがあちこちで飛び交うのが目に入ります。ミヤマセセリです。忙しく飛び回るのは♂の場合が多く、いわゆる探雌飛翔です。飛び疲れてなのかどうかは分かりませんが、いずれ適当な陽だまりにとまって翅表全開で日光浴を始めるので、その場所を予測して接近しカメラ撮影にチャレンジです。人の気配にはかなり敏感ですが、左右の動きをしないように気をつけてまっすぐにゆっくりと近づくのが鉄則です。



ミヤマセセリの幼虫はコナラやクヌギの葉っぱを食べて育ちます。ギフチョウが舞う雑木林はコナラが多く格好の発生地となっているようで、通常、一地域に多くのミヤマセセリを見ることは珍しいといわれるのですが、加古川の里山一帯には多産します。写真は前翅の白い模様が大きく、これは♀の特徴です。白水博士の日本産標準蝶類図鑑には、休息時に蛾のなかまがするような前翅を屋根型にたたむ他のチョウにはみられない面白い習性がある、との記載がありますが、私はそういう光景に出会ったことはありません。

チョウが趣味だといえれば必ず聞かれるのが「チョウとガとはどこが違うのか」という疑問ですが、正解はいずれも鱗翅目として包括され分類学的には区別できないとされます。事実、フランスではパピヨン、ドイツではシュメッテルリンクという総称で両者を区別していません。それでも感覚的に明らかに違いがあるようにも思えるわけで、蝶ではアンテナが棒状だが蛾では毛状、蝶は昼間活動するが蛾は夜、蝶は羽を閉じてとまるが蛾は羽を開く等々、なるほどと思える差異を列挙できますが、これらすべてに例外があり決定的な差をつけられないのです。では、日本で普通に区別するチョウとガとでどちらがより進化していると思いますか？

常識的には人間の生活リズムに近いチョウだと答える人が多いでしょうが、実はガの方が生物学的に進化しているというのが正しいのです。分かりやすい話をすれば、ほとんどのチョウは蛹となるとき体むきだしですがガでは多くが繭をつくってその中で蛹となり、防御という点であきらかにガの方が進化しているわけです。セセリチョウの仲間はチョウのなかでは一番ガに近く、それだけ進化しているグループだといえます。からだは小さいけれども相対的に太い胴体にジェット機のようなスマートに尖った羽をもつものが多く、すごいスピードで飛ぶことができます。